

ANNUAL REPORT 2018



お問い合わせ 宮城大学 復興人材育成プログラム推進室

大和キャンパス

宮城県黒川郡大和町学苑1-1 TEL:022-377-8649 FAX:022-377-8669

太白キャンパス

宮城県仙台市太白区旗立2-2-1 TEL:022-245-1642 FAX:022-245-1534

Email: cp-suishins@myu.ac.jp (受付時間/平日9:00~17:00)

宮城大学 フィールドワーク系科目

地域連携型実践教育プログラム アニュアルレポート 2018

宮城大学 復興人材育成プログラム推進室



地域とともに学ぶ。



地域とともに育む未来 —東北から発信する持続可能な地域創造—

東日本大震災から約8年が経過し、震災復興の道は途上にあるものの、いくつかの被災地においては、地域再生の息吹や希望も生まれてきている。コミュニティ・プランナープログラムは、阪神・淡路大震災の復興に取り組む兵庫県立大学と東日本大震災の震災復興に取り組む宮城大学が連携し、これからの地域の担い手を育てていく「地域連携型実践教育プログラム」である。本プログラムは、文部科学省の補助事業としてスタートし、平成29年度の大学改革において、全学群必修科目の地域フィールドワーク、コミュニティ・プランナープログラムとして再構築された。東北のみならず、全国的に、地域の未来を担う人材の育成は急務である。大学は地域の未来を牽引する「知の拠点」として機能を果たしていかなければならない。

本プログラムは、こうした地域の期待を踏まえながら、学生が地域と共に学び、その経験を地域に還元していくための実践的な教育プログラムとなっている。学生自らが地域の課題を発見し、

様々な学習を踏まえて、地域の解決策を提案していく力を得ていくことが本プログラムの目的である。本プログラムを履修した学生は、全課程を修了すると、卒業時に「コミュニティ・プランナーアソシエイト」が授与されることになる。

東日本大震災は地域に甚大なる被害を与えたが、その一方で、震災復興の過程が「コミュニティの価値」や「人と人の関わり的重要性」を再認識させる契機となった。宮城大学は、被災地に立地する公立大学として、これまで様々な震災復興支援に携わってきたが、これからも、これらの経験を踏まえ、宮城県や被災地の自治体、NPO、企業、市民団体等と連携を深めつつ、創造的復興の実現と持続可能な地域創造に資する人材育成を目指していく。コミュニティ・プランナープログラムから輩出される地域人材は、こうした東北の未来を創造していく重要な礎となっていくであろう。

宮城大学 復興人材育成プログラム推進局 代表教員 **風見 正三**

学群を横断し、さまざまな教員が関わり運営しています。

平成30年度 地域フィールドワーク 統括教員

郷古 雅春教授／風見 正三教授／平岡 善浩教授／舟引 敏明教授／安齋 由貴子教授／大熊 恵子教授／風間 逸郎教授／佐々木 秀之准教授／高橋 信人准教授／千葉 克己准教授／石田 祐准教授／中沢 峻特任講師
ほかクラス担当教員17名

平成30年度 コミュニティ・プランナー科目 担当教員

看護学群 安齋 由貴子教授／大熊 恵子教授／桂 晶子准教授
事業構想学群 風見 正三教授／平岡 善浩教授／佐々木 秀之准教授／石田 祐准教授／友測 貴之助教
食産業学群 郷古 雅春教授／千葉 克己准教授／高橋 信人准教授
基盤教育群 河西 敏幸教授／中沢 峻特任講師

復興人材育成プログラム推進室

大和キャンパス 高橋 結特任調査研究員／佐藤 加奈絵特任調査研究員／水野 葉子事務補助
太白キャンパス 佐伯 幸恵特任調査研究員／堀内 秀一特任調査研究員／高橋 咲子事務補助

地域連携型実践教育について

地域連携型実践教育とは

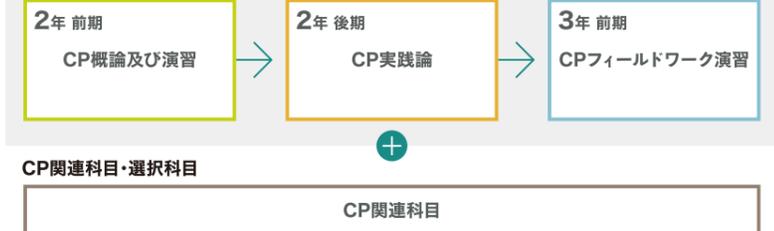
宮城大学では、地域の歴史・文化・資源を活かしたコミュニティづくりや、地域の人びととともに課題解決ができる人材(コミュニティ・プランナー)の育成を目指す新しい教育プログラムを実施しています。
1年次に全学必修科目「地域フィールドワーク」、2～3年次に全学共通選択科目「CP概論及び演習」「CP実践論」「CPフィールドワーク演習」を開講し、主に「講義(座学)+フィールドワーク(実践)」の形式で学びを深めていきます。
地域コミュニティの現場に触れ、自らの目でみて・聞いて・体験し、学習することで、地域の人びととともに考えながら、地域本来の良さを活かした、これからのコミュニティづくりの実践手法を習得していきます。

カリキュラム概要

基盤教育・全学必修科目



CP科目・全学共通選択科目



コミュニティ・プランナーアソシエイト

コミュニティ・プランナー／コミュニティ・プランナープログラム

現在、公共機関のまちづくり分野、福祉や医療、商業や農業など、あらゆる分野において、地域主体の視点を持った人材が求められています。
本プログラムでは、コミュニティ・プランナーとして、地域が抱える多様な課題の解決や、地域が求める多様なコミュニティづくりに貢献できる人材の育成を目指し、教育プログラムを展開しています。

単位について

基盤教育科目の「地域フィールドワーク」1科目2単位、CP科目の「CP概論及び演習」「CP実践論」「CPフィールドワーク演習」の3科目6単位、各学群既存科目である「CP関連科目」のうち2領域以上から6科目12単位以上を履修します。合計20単位以上を履修することで卒業時に宮城大学と兵庫県立大学の連名で『コミュニティ・プランナーアソシエイト』の称号が授与されます。

GREENの視点

持続可能(サステナブル)な地域コミュニティを構築し、維持していくためには、緑ある環境をベースにして、人、植物、動物、全ての生命(いのち)がつながり、関わり合うことが必要です。このような、すべての生命(いのち)のつながり、関わりを意味するものを「GREEN」として、本プログラムにおける新視点として設定しています。

宮城県内自治体との連携

地域連携型実践教育プログラムの開講科目では、フィールドとして宮城県内各地の自治体にご協力をいただき、講義を実施しています。フィールドワークでの調査やヒアリング、自治体職員や地域の方からのレクチャーなど、地域との連携を深めながら実践的な学びのプログラムを展開しています。

2014年(平成26年度)

大崎市(古川) CP概論/CP基礎演習

2015年(平成27年度)

大崎市(鬼首) CP概論/CP基礎演習
大崎市(古川) CP実践論

2016年(平成28年度)

大崎市(岩出山) CP概論/CP基礎演習
大崎市(鬼首) CP実践論
大崎市(古川) CPFW演習

2017年(平成29年度)

大和町 地域FW
富谷市 地域FW
利府町 地域FW
蔵王町 地域FW
大崎市(岩出山) CP実践論
大崎市(鬼首) CPFW演習

2018年(平成30年度)

美里町 地域FW/CP実践論
東松島市 地域FW
加美町 地域FW
岩沼市 地域FW
白石市 地域FW
村田町 地域FW
丸森町(耕野) CP実践論
大崎市(岩出山) CPFW演習



宮城大学と兵庫県立大学との連携

阪神・淡路大震災および東日本大震災からの復興に取り組む兵庫県立大学と宮城大学が、密接な連携体制のもと、コミュニティ・プランナープログラムの構築を進めてきました。現在でも被災地に立地する公立大学として互いの強みを生かし、プログラムを共同で展開しています。

兵庫県立大学

- ▶神戸商科キャンパス (大学本部・経済学部・経営学部 他)
- ▶姫路工学キャンパス(工学部 他)
- ▶播磨理学キャンパス(理学部 他)
- ▶姫路環境人間キャンパス (環境人間学部 他)
- ▶明石看護キャンパス(看護学部 他)
- ▶淡路緑景観キャンパス (緑環境景観マネジメント研究科 他) (他、9つのキャンパス)

宮城大学

- ▶大和キャンパス (事業構想学群・看護学群)
- ▶太白キャンパス(食産業学群)



平成30年度前期[1年次 全学群必修科目]

「地域フィールドワーク」

指定日開講・集中講義 履修学生:431名

全6回

- 1▶平成30年4月11日(水) ガイダンス
- 2▶平成30年4月25日(水) 自治体職員によるレクチャー
- 3▶平成30年5月16日(水) フィールドワークのテーマ設定
- 4▶平成30年6月6日(水) フィールドワーク
- 5▶平成30年6月13日(水) フィールドワークのまとめ作成
- 6▶平成30年7月4日(水) まとめ共有



フィールドから学びや気づきを得る

宮城大学における基盤教育に位置づけられ、1年次の全学群必修科目として開講しています。

地域の自然・歴史・文化等を学びながら、グループワークやフィールドワークを通して地域の魅力や課題など、様々な気づきを促します。地域社会の将来に対する使命感を涵養し、今後の大学生活における主体的な学びに向けた動機づけとすることも目指しています。

平成30年度は東松島市、加美町、美里町、岩沼市、白石市、村田町の6自治体をフィールドとしました。自治体のご協力のもと、看護学群、事業構想学群、食産業学群の学生431名が受講し、

指定日・集中講義形式で開講した講義を通して、実際に地域へ足を運び、フィールドから学びや気づきを得ました。

6月6日の現地フィールドワークの際には、地域で活躍する企業やNPO、住民団体、観光地、主要施設などを訪問し、住民の方へのヒアリング調査やまちあるきを実施しました。

最後に講義の総括として、テーマ設定の背景・目的、調査結果、分析をまとめた「フィールドワークのまとめ」の作成に取り組み、グループで共有を行いました。最終講義ではご協力いただいた自治体のご担当者にお越しいただき、ふりかえりを行いました。

「CP概論及び演習」

毎週水曜5限開講 履修学生:60名

全15回

- 1▶平成30年4月11日(水) ガイダンス
- 2▶平成30年4月18日(水) 地域コミュニティについて
- 3▶平成30年4月25日(水) 地域の現状を把握するには
- 4▶平成30年5月9日(水) 地域の現状を把握するには
- 5▶平成30年5月16日(水) 地域の現状を把握するには
- 6▶平成30年5月23日(水) 地域の現状を把握するには
- 7▶平成30年5月30日(水) コミュニティ・プランナーに触れる(ビジネス)
- 8▶平成30年6月13日(水) フィールドワークの手法を学ぶ①
- 9▶平成30年6月20日(水) コミュニティ・プランナーに触れる(ケア)
- 10▶平成30年6月27日(水) コミュニティ・プランナーに触れる(デザイン)
- 11▶平成30年7月4日(水) フィールドワークの手法を学ぶ②
- 12・13▶平成30年7月11日(水) プロジェクトマネジメント(マイプロジェクトの検討)
- 14▶平成30年7月18日(水) プロジェクトマネジメント(マイプロジェクトの共有)
- 15▶平成30年7月25日(水) 講義全体のまとめ・ふりかえり



必要な基礎知識の習得

コミュニティ・プランナープログラムの2年次前期の科目として開講しています。

調査・企画力、ワークショップ運営やヒアリングの技術など、コミュニティ・プランナーとしてフィールドに出た際に必要なりテラシーを学び、地域の方々のパートナーとして課題解決に貢献できる基礎知識の習得を目指します。

地域コミュニティについての基礎知識を得た上で、自身とコミュニティとの関わり方について個人ワークで検討し、コミュニティ・プランナーの役割や姿勢について捉えていきました。その後、地域の現状を把握する視点として、歴史・地形・空間・

生活をテーマにそれぞれの専門分野の教員から地域の多様な捉え方を学びました。

また、コミュニティ・プランナーに触れる機会として、ビジネス、ケア、デザインの分野で活躍する実践者を招き、地域での取り組みについてレクチャーをいただき、コミュニティ・プランナーのイメージを掴む機会となりました。

さらに、ワークショップやファシリテーター、プロジェクトマネジメントの専門家の講義から、それぞれの手法を学び、コミュニティ・プランナーとして必要な基礎知識の習得につなげていきました。

「CP実践論」

毎週水曜3限開講(サイトビジットのみ3~5限) 履修学生:42名

全15回

- 1▶平成30年9月26日(水) ガイダンス
- 2▶平成30年10月3日(水) CPの果たすべき役割について
- 3▶平成30年10月10日(水) グループワークおよびゲストスピーカーによる実践報告
- 4▶平成30年10月17日(水) ゲストスピーカーによる実践報告
- 大和5-7▶平成30年10月24日(水) サイトビジット(美里町)
- 太白5-7▶平成30年11月14日(水) サイトビジット(丸森町)
- 8▶平成30年10月31日(水) アイディアの創出プロセス/ゲストスピーカーによる実践報告
- 大和9-14▶平成30年11月7日(水)、14日(水)、21日(水)、12月9日(日)、12日(水)、19日(水)
- 太白9-14▶平成30年12月5日(水)、9日(日)、15日(土)、16日(日)
- 15▶平成31年1月9日(水) 最終講義・報告会



トップランナーから実践を知る

CP概論及び演習に続く、2年次後期の科目として、地域コミュニティに関わる専門家とのフィールドワーク、講義による事例把握や実体験を通じて、地域活性化策を実行するプロセスへの理解を深め、より実践的な知識や技術の獲得と学びの深化をねらいとしています。

平成30年度の履修学生は、大和キャンパスでは美里町、太白キャンパスでは丸森町(耕野地区)をフィールドとし、自治体や地域の方々のご協力のもと、講義を実施しました。復興・地域づくりの実践者や、フィールドとなっている自治体の職員の方から、実践報告や地域に関するレクチャーを通して地域についての知識や理解を深め、サイトビジットに向けた準備に取り組むとともに、コミュニティ・

プランナーの果たすべき役割についての学びを深めていきました。サイトビジットでは事前の学習や検討に基づき、実践者へのヒアリングや現場の視察を行い、フィールドで情報収集を行い、企画の検討につなげました。

続いて、サイトビジットを踏まえ、具体的なアイディアの創出や、住民参加型事業計画手法の一つであるPCM(Project Cycle Management)手法などを学びつつ、企画から提案に向けたプロセスを学ぶとともに報告会に向けた検討とプランのまとめを行いました。最終講義では、お世話になったフィールドの方々にもお越しいただき、両キャンパスで報告会を実施しました。

「CPフィールドワーク演習」

指定日開講・集中講義 履修学生：12名

全5回

- 1▶平成30年4月18日(水) ガイダンス
 - 2▶平成30年5月23日(水) PCM手法を学ぶ
 - 3▶平成30年6月2日(土) 現地フィールドワーク
 - 4▶平成30年6月27日(水) PCM手法を学ぶ
 - 5▶平成30年7月25日(水) 最終報告会
- ※記載日程のほか、各自フィールドワーク・担当教員の個別指導を実施



知能を技能に変える実習

コミュニティ・プランナープログラムの最終科目として、コミュニティ再生の実践的経験を通じて、コミュニティ・プランナーとしての職能を理解しつつ、様々なステークホルダーとの協働手法や地域課題解決の実践手法を習得することを目指し開講しています。本科目の履修学生は、平成28年度から3年間、大崎市岩出山地域をフィールドに学んできました。これまでのCP科目講義や岩出山地域でのフィールドワーク等での学びや気づきを踏まえて、コミュニティ・プランナープログラムの最終科目として岩出山地域をフィールドに各自のテーマにて調査・分析に取り組みました。

指定日・集中講義形式で開講した講義内において、地域を捉える分析手法の一つとしてPCM(Project Cycle Management)

手法について座学形式で学び、各自が取り組むテーマの設定を行うとともに、地域の現状や設定したテーマを客観的に捉え、分析、プランニングの視点を深めました。6月2日には岩出山地域でフィールドワークを行い、各自のテーマに必要な情報収集やヒアリング調査を行いました。現地でのフィールドワークや調査を重ねて得た気づきを整理し、次の講義では、ログ・フレームと呼ばれるプロジェクトマネジメントツールを用いてそれぞれが取り組むテーマを深掘りし、プロジェクトが地域にとって適切かという視点からプランを検討しました。適宜、さらなる現地調査や教員の個別指導に取り組み、地域への報告内容を深めました。7月には最終報告会を岩出山地域で実施し、地域の方々との意見交換も交えて、3年間の報告とさせていただきます。

「地域における連携・協働の取り組み」

講義から生まれた学生企画の実践、被災沿岸部でのフィールドワークなど、講義でのフィールド活動にとどまらず、地域社会・自治体・復興に関わるステークホルダーと連携した取り組みを通して、人材育成に必要な知見を深め、本プログラムの強化に取り組んでいます。

CPフィールドワーク演習エクストラ「学生自主企画」

謎解きイベント@岩出山さくらまつり

平成30年4月21日(土) / 大崎市岩出山地域 城山公園

岩出山地域にある甲冑の活用と商店街の回遊策の提案として、「謎解き」を用いたプランを検討。前年度のプレイベントの実施を経て、平成30年度は、地域行事である岩出山さくらまつりにて、謎解きイベントを企画・実施しました。



じもしょくを知ろう～老いも若きもぐるぐる交流～

平成30年11月4日(日) / 大崎市岩出山地域 スコアハウス

岩出山地域における食と世代間交流に着目し、岩出山地域づくり委員会と協働で「多世代の交流促進」「地元の食材を知る」「健康づくり」をテーマに、イベントを企画・実施しました。

※岩出山公民館ブログ「じもしょくを知ろう」(<http://blog.livedoor.jp/iwachi2012/archives/52655057.html>)



被災地との協働

ポートランド州立大学被災地視察・学生交流

平成30年6月24日(日) / 仙台市内(荒浜地区等沿岸地域含む)、THE6

ポートランド州立大学が実施する、東日本大震災の教訓を学ぶための授業及び視察プログラムの一環として、ポートランド州立大学と宮城大学学生のフィールドワークと交流により、「災害に備えるまちづくり」について学びました。



(上段)仙台市 塩竈市 沿岸フィールドワーク / (下段)南三陸町 沿岸フィールドワーク

被災地沿岸フィールドワーク

宮城県内の被災沿岸地域においてフィールドワークを行い、地域の復旧・復興状況やそれらに携わる人々と触れることで地域の実情を捉え、プログラムの強化に活かしています。

平成30年11月17日(土) /
仙台市：荒浜小学校(震災遺構)
塩竈市：北浜地区災害公営住宅、塩竈市津波防災センター

平成31年1月18日(金) /
南三陸町：志津川中学校、南三陸役場、南三陸病院、東団地、あさひ幼稚園、さんさん商店街、ハマレ歌津、三嶋神社、さとうみファーム

兵庫県立大学との連携

兵庫県立大学・宮城大学 CP科目合同発表会

平成30年12月9日(日)
宮城大学大和キャンパス 交流棟 PLUS ULTRA-

13:40~14:30 宮城大学発表(各グループ10分)
14:30~15:30 兵庫県立大学発表(各グループ5分)
15:30~15:50 総評

兵庫県立大学とのWebシステムによる中継講義として、CP実践論・CPFW演習の合同発表会を実施しました。宮城大学の3年生(CPFW演習)・4年生(CP科目の受講を通して設立された学生サークルの活動)、兵庫県立大学の2年生(前期CP実践論・後期CPFW演習)が講義を通して検討したプランや実施成果を発表しました。



活動実績・メディア掲載

2017年(平成29年度)

WEB媒体(自治体)

- ▶大和町Webサイト掲載
宮城大学地域フィールドワーク「宮城大学生がまち歩きを実施」
<https://www.town.taiwa.miyagi.jp/soshiki/matisei/5419.html>
(地域フィールドワーク)
- ▶富谷市Facebookページ掲載 6月17日、7月1日、7月8日、8月8日
(地域フィールドワーク)
- ▶大崎市Webサイト掲載
大崎市 フォトニュース「宮城大学生が大崎市の地域活性化のため活動しました」
<http://www.city.osaki.miyagi.jp/index.cfm/35,22400,html>(CP科目)

自治体広報誌

- ▶広報たいわ 8月号掲載「宮城大学生がまち歩きを実施」
(地域フィールドワーク)
- ▶広報りふ、8月号掲載「利府町×宮城大学 連携事業 地域フィールドワーク」
- ▶広報たいわ「たいわのわ」連載
平成29年10月号~平成30年2月号
(地域フィールドワーク7月1日講義)

テレビ

- ▶東北放送 Nスタみやぎ 平成29年7月1日放送
(地域フィールドワーク7月1日講義)

新聞

- ▶河北新報 平成29年8月21日掲載(地域フィールドワーク8月8日講義)
- ▶日本経済新聞 平成30年1月27日掲載(地域フィールドワーク)
- ▶日本経済新聞 Web版 平成30年1月27日掲載(地域フィールドワーク)
- ▶河北新報 平成30年1月28日掲載(復興人材育成セミナー)

事例集

- ▶一般社団法人公立大学協会(2018)
「公立大学の地域貢献機能 地域貢献プログラムの「LEAD」による事例分析」
p.9 宮城大学 自治体との協働による
被災地域の復興・再生・発展を担う人材育成プログラム」

2018年(平成30年度)

WEB媒体(自治体)

- ▶白石まちづくり株式会社 蔵富人 Facebookページ掲載 6月6日(地域フィールドワーク)
- ▶美里町 起業創業サポートセンター kiribi Facebookページ掲載
4月25日、6月6日(地域フィールドワーク)、10月17日(CP実践論)

自治体広報誌

- ▶市報ひがしまつしま 7月1日号掲載(地域フィールドワーク)

テレビ

- ▶ミヤギテレビ OH!バンデス 平成30年6月18日放送
(地域フィールドワーク6月6日講義:東松島でのフィールドワークの様子)
- ▶東北放送Nスタみやぎ 平成30年11月15日放送
(CP実践論11月14日講義:丸森町でのフィールドワークの様子)

新聞

- ▶河北新報 平成30年10月28日掲載(CP実践論10月24日講義:美里町)
- ▶河北新報 平成31年1月18日掲載(CP実践論1月9日講義:最終報告会)
- ▶河北新報 平成31年2月18日掲載
(復興人材育成セミナー2月9日:宮城学院女子大学×宮城大学合同活動報告会)

事例発表等(学会等)

- ▶郷古 雅春、中沢 峻、千葉 克己、高橋 信人、佐々木 秀之(2018)
「地域連携型実践教育プログラムと農業農村工学について」
農業農村工学学会第67回大会講演会
- ▶高橋 結、佐々木 秀之、中沢 峻、郷古 雅春(2018)
「大学教育における地域系科目の増加とNPOの連携可能性」
日本NPO学会 第20回年次大会
- ▶高橋 結、佐々木 秀之、風見 正三(2018)
「サービスマーケティング科目における受講者の省察に関する研究」
日本計画行政学会 第41回全国大会
- ▶高橋 結、中沢 峻、佐々木 秀之、郷古 雅春(2018)
「地域人材育成に向けたアクティブラーニングモデルの構築」『季刊地理学』pp.38-39
- ▶郷古 雅春、佐々木 秀之、中沢 峻、佐藤 加奈絵、高橋 結
仙台防災未来フォーラム2019ブース出展
「宮城大学復興に資する人材育成に向けた地域連携型実践教育プログラム」

CPアソシイト授与者の就職(内定)先名

| | | | | |
|------|--------------------------|---------------|------------------|--------------------|
| 公務員 | 国土交通省 東北地方整備局 登米市(事務) | 企業 | 東北電力(株) | パーソルプロセス&テクノロジー(株) |
| | 大館市(行政事務) | | NTT東日本(株) | 鈴木農場 |
| | 大和町(行政事務) | | なんと農業協同組合(JAなんと) | (株)奥羽木工所 |
| | 石巻市(行政事務) | | JA東日本くみあい肥料(株) | (株)ソルブレイン |
| | 岩手県(学校事務) | | 三井住友海上火災保険(株) | (株)DNPデジタルソリューションズ |
| 教育機関 | 国立大学法人東北大学 (事務職員) | 日清鉄鋼(株) | (株)ピーエス三菱 | |
| | | 伊藤建設(株) | (株)TTK | |
| | | マックスバリュ南東北(株) | ヤマニ建設(株) | |
| 金融関係 | 東北労働金庫 (株)荘内銀行 | (株)東広社 | ヤマカノ醸造(株) | |
| | | 大蔵山スタジオ(株) | | |

地域連携型実践教育のあゆみ

2012年(平成24年度)

文部科学省 大学間連携 共同教育事業 採択事業
宮城大学・兵庫県立大学
「コミュニティ・プランナー育成のための実践的教育課程の構築」
試行プログラム(部会活動等)を実施

2013年(平成25年度)

コミュニティ・プランナーカリキュラム検討、試行授業実施
試行プログラム(部会活動・兵庫宮城学生交流会等)を実施

2014年(平成26年度)

コミュニティ・プランナー科目 開講
コミュニティ・プランナー教育センター(CPEC)運営開始
1(2)年次前期 コミュニティ・プランナー概論(大崎市古川地域):履修生144名
1(2)年次後期 コミュニティ・プランナー基礎演習(大崎市古川地域):履修生68名

2015年(平成27年度)

2(3)年次前期 コミュニティ・プランナー実践論(大崎市古川地域):履修生15名
1年次前期 コミュニティ・プランナー概論(大崎市鬼首地域):履修生71名
1年次後期 コミュニティ・プランナー基礎演習(大崎市鬼首地域):履修生37名

2016年(平成28年度)

地域フィールドワークカリキュラム検討開始(10月部門設置)文部科学省 事業終了
第1期生 卒業・アソシイト授与者3名
3(4)年次前期 CPFW演習(大崎市古川地域):履修生9名
2年次前期 コミュニティ・プランナー実践論(大崎市鬼首地域):履修生22名
1年次前期 コミュニティ・プランナー概論(大崎市岩出山地域):履修生157名
1年次後期 コミュニティ・プランナー基礎演習(大崎市岩出山地域):履修生81名

2017年(平成29年度)

宮城県「宮城大学復興人材育成事業」にて事業実施
宮城大学 学群学類移行
1年次 全学必修科目 地域フィールドワーク 開講
第2期生 卒業・アソシイト授与者6名
3年次前期 CPFW演習(大崎市鬼首地域):履修生21名
2年次前期 コミュニティ・プランナー実践論(大崎市岩出山地域):履修生18名
1年次前期 地域フィールドワーク(大和町、富谷市、利府町、蔵王町):履修生437名

2018年(平成30年度)

第3期生 卒業・アソシイト授与者20名予定
3年次前期 CPFW演習(大崎市岩出山地域):履修生12名
2年次前期 コミュニティ・プランナー概論及び演習:履修生60名
2年次後期 コミュニティ・プランナー実践論(美里町・丸森町耕野地域):履修生43名
1年次前期 地域フィールドワーク
(東松島市・加美町・美里町・沼岩市・白石市・村田町):履修生431名